

事例4「警察の委嘱による中学生ボランティア の取組成果を活用する取組」(中学校)

取組のポイント

・本取組は、中学生・高校生ら少年自らが、お互いに非行防止について呼びかけ、その活動を通じて、学校の仲間、さらには地域社会も一体となって、県内全体に非行防止の輪を広げることを目的として結成されているチームの取組成果を学校教育の中で発表し、お互いに非行防止について呼びかけ、その活動を通じて、学校の同級生や地域社会の方々も一緒になって非行防止の輪を広げていくことが特徴である。

・青少年の非行防止を図るためには、生徒自身が自ら規範意識を高める運動を行うなどの活動を奨励していくことも重要であり、本取組はその参考になるものと思われる。

活動の流れの概要

チームを中心とした非行防止の呼びかけ

チームによる調査・ポスター制作・標語募集・会場準備

近隣の店舗、警察との連携による非行防止教室

学校と警察の連携による継続的な啓発活動

教育課程上の位置付け

・近隣の店舗、警察との連携による非行防止教室(学級活動)

実施までの経緯

・本県においては、多くの中学校・高等学校において非行防止や健全育成の啓発を図るチームが結成されており、県内の中学校及び高等学校の生徒3000人以上が、ボランティアとして県警本部より委嘱されている。

・主な活動として、行われているものとして、

・生活の基本である「あいさつ」を徹底するための「あいさつ運動」

・非行防止対話集会の開催

・万引きゼロ運動など、万引き防止運動の実施

・少年非行の実態取材と壁新聞等の作成

・文化祭での少年非行防止コーナーの開設

・非行防止のためのアンケート調査の実施

・少年補導協力員などの警察ボランティアと共に、非行防止や薬物乱用防止の広報等

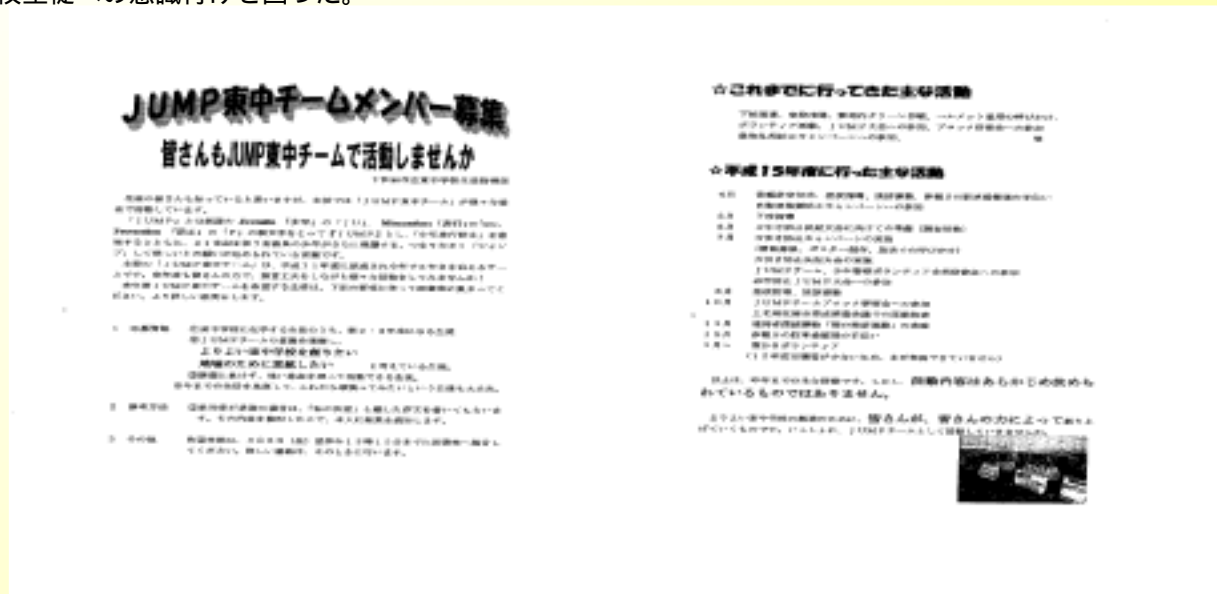
・チームは、生徒会とは異なる組織であり、自主的な活動を希望する二年生・三年生で構成されている。チームの活動は、当初は冬季期間の雪かきや登下校の指導など地道な活動の積み重ねであったが、次第に広がりを見せており、現在は30人以上が参加している。

・学校の近隣においては、近年万引きの事案が増加していることから、チームの取組を学校教育の中において生徒が自ら発表し、生徒会等とも連携して、万引き防止の気運の醸成を図ることとした。



事前の取組

- ・年度末に生徒指導主事が窓口となって、チームへの参加を募集した。
 - ・日頃から、一斉下校時の下校指導や雪が積もる前と春先のゴミ拾い、ヘルメットの着用呼びかけなどを実施
 - ・万引き防止キャンペーンの実施検討にあたり、教員と連携して、チームを4つに分けて活動を実施した。
- 調査班：地域のスーパーマーケット等に出かけ、万引きの実態や店舗側が中学生に伝えたいことなどを調査し、発表資料としてまとめた。
- ポスター制作班：ポスターは全校生徒の意識を高めるために決起大会の1週間前から正面玄関に張り出した。
- 標語募集班：全校生徒に呼びかけて、万引き防止の標語を募集した。
- 会場準備班：万引き防止決起大会の会場準備、看板制作などを実施するとともに、昼休みの放送等を活用し、全校生徒への意識付けを図った。



非行防止教室の開催

・チームによる万引きに関する調査発表

・チームでは万引き防止キャンペーンを行い、その中で調査を実施しました。調査結果によれば、万引きは犯罪であるという認識がない、もしくはあまりないと回答する人もいました。

実施場所・・・体育館

講師・・・・・・警察官、事業者（店舗）

対象者・・・・・・本学校（中学校）の全生徒

非行防止教室のスケジュール

- ・開会挨拶
- ・チームによる万引きに関する調査発表
- ・店舗の方によるお話
- ・生徒会と共に万引き撲滅宣言

万引きということは、店の人も言っていた通り、窃盗（他人のものを勝手に盗むこと）です。万引きが増えているのは、万引きという言葉で罪が軽くなると思われているからではないでしょうか。そうした勘違いが万引きを増やす原因となっていると思います。「万引きイコール窃盗」という言葉を一生忘れないでほしいです。そして、社会から万引きがなくなるように、まず私たちが努力していこうと思います。

・店舗の方の話を聞く

・店側としては、お客様を犯罪者として扱いたくはないので、犯罪者をつくらないことを基本姿勢に、従業員に対して、声かけなどの指導をしています。また、防犯カメラを店内に設置しておりますが、費用がかかるために、売り場の全てに行き届いてはけません。さらに、広い店内に従業員は限られた人数しかいないので、どうしても死角ができてしまいます。

・こうしたことから、町内で「あそこの店は従業員が少ないから、万引きができる」という話が広がってしまうと、万引きは増加する一方となってしまいます。そうなってしまうと、陳列する商品のすべてを空箱にして、カウンターで受け取ることになるなど、お客様にご負担をおかけすることにもなります。

・このように、店側としても、万引き対策には苦慮しているところです。みなさんも、万引き防止を他の子どもたちや地域みなさんに呼びかけていただきたいと思います。

事後の取組

・非行防止教室の実施後も、防犯弁論大会における演題の作成や会場の準備・後片付け、司会進行を担当したり、チームの代表者による合同研修会へ参加しており、これらの取組については学校新聞等を通じて全生徒や教員に周知している。

・また、生徒が感想文を作成し、全校朝会において紹介したり、万引き防止に関する標語を選定して、校内に掲示したりしている。



生徒の感想

・万引きを何気なくしている人は、その行為のためにどれくらいの人達が困っているのか考えたことはあるのだろうか、最終的には自分が苦しむことになるのを知ってやっているのだろうか、と思いました。自分のことだけ考えず、周りの人達のことを考えてほしい、そして、早く過ちに気づいて反省してほしいと思います。

・「万引き防止決起大会」を通して、改めて万引きは最低なことであると感じました。万引きは立派な犯罪であり、たとえ万引きした物の値段が安くとも、そんなことは全く関係なく、それがあると店の人も大変困るということも印象に残りました。一分一秒でも早く万引きをする人をなくすためには、その人自身に気づかせること、そして「いけない!」とはっきり注意できる人が必要だと思います。

万引き防止標語

大切な お金で買うから 宝物
君の手を ずっと見ている 君の目が
誘惑に 負けたあなたは 犯罪者

本プログラムの活用により期待される効果と活用上の留意点

成果

・本プログラムは、生徒が自主的に参加している学校外の取組の成果を取り入れ、非行防止の取組の充実に資するものである。こうした取組を学校教育に取り入れるに当たっては、全生徒に取組の成果を広げることが重要であり、適切に教育課程に位置付けるとともに、生徒会との連携を促進することなどの工夫も考えられる。

留意点

・これらの取組を継続的なものとしていくためには、学級活動や道徳の時間などとも関連付けて、年間指導計画に位置付けていくことも積極的に検討する必要がある。また、日頃からの自発的な活動を積み上げていくことの重要性を生徒に意識付けていくことが重要である。